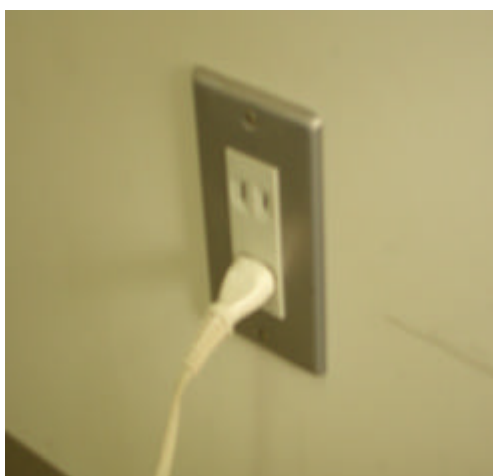


電気火災にご注意を

電気製品の電源コードのプラグをコンセントに差しっぱなしにして、目視点検等を怠っていると、火災の原因になる恐れがあります。

これらの現象等について説明いたします。



トラッキング現象

コンセントやテーブルタップに長期間プラグを差し込んだままにしておくと、コンセントとプラグの隙間に徐々にたまった埃や湿気のために、プラグ両極間に微弱電流が流れる場合があります。この時に発生する火花放電の繰り返しにより絶縁状態が悪くなり発熱し、発火にいたります。この現象をトラッキング現象と言います。

家具の裏側や湿気の多い所、水漏れしやすい箇所にあるコンセントは要注意です。

トラッキング現象を防ぐためには、次の事を心がけてください。

- ・ 冷蔵庫等の常時通電している機器のプラグは、時々コンセントから抜いて、乾燥した布で拭いてください。
- ・ 部屋の換気をこまめにしてください。窓に結露水がたまる状態であれば、窓際のコンセントも湿気が高いと思われます。
- ・ 時々、コンセントからプラグを抜いてみて、異常の有無を確認してください。プラグが変色又は変形している場合は、使用を中止してください。使用していない機器はスイッチを切り、コンセントからプラグを抜いておいてください。

寒い時期は部屋を閉め切ったりしている場合が多いですが、換気と清掃を行いトラッキング現象が起これにくい環境作りに心がけてください。



たこ足配線

テーブルタップや二又プラグ、三又プラグなどでひとつのコンセントからいくつもの機器を同時に使用している場合があります。

その様子がタコの足を連想させるところから、たこ足配線と言われるようです。

テーブルタップは4口あるいは5口くらいの差し込み口がある場合でも、電流値は15Aまでです。また、コンセントの電流値も15Aです。同時使用している機器の電流値の合計が20Aくらいまでなら配線用遮断器(ブレーカ)も落ちないので、過電流が原因でプラグやコードが熱くなる場合があります。燃えやすいものが近くにあたりすると出火につながる場合があります。



右上の写真には、コードを束ねている箇所があります。束ねたコードは熱の逃げ場がなくなり、そこから熱を持つ事があります。近くに燃えやすいものがあると、出火につながる場合があります。

電源コードを束ねた状態での電気機器の使用は、熱が蓄積され出火につながる場合がありますので注意してください。

配線用遮断器は、ゆとりを持たせてあります。電気製品のスイッチを入れる瞬間に通常時より多くの電力が必要となるためです。このために若干の過電流では配線用遮断器は落ちないようにしております。



半断線

電源コードが壁に押しつけられたり、キャビネット類の下敷きになったりして、コード内の電線が何本か切れている場合があります。この状態が半断線です。

こういった箇所は電気の流れる道が狭くなるため、熱を持ち出火につながる場合があります。

コードの上に重いものが乗ったりしないように注意する事が必要です。

電気製品のプラグは、一度コンセントに差し込んでしまうと、そのまま長期間放置される傾向が強いようです。プラグから機器へつながるコードが火事の原因となる場合もあります。

たまにプラグやコードが熱くなったりしていないか点検してみてください。**大掃除などの機会をとらえてチェックする習慣を身につけたいものです。**